

DIVERSITY NEWSLETTER

法政大学ダイバーシティ推進委員会



今号の内容

HOSEI DIVERSITY WEEKs 2022 を
開催しました - 1

<コラム>ご出身は? - 3

<対談>ダイバーシティトレーニング
と異文化コンピテンシー - 4

HOSEI DIVERSITY WEEKS 2022 を開催しました

2022年11月21日～12月3日に市ヶ谷キャンパスやオンライン
等で「HOSEI DIVERSITY WEEKs 2022」を開催しました。

初開催となる今回は、「知ることからはじめるダイバーシティ
～少しの変化が大きな変化に～」をテーマに、計6つのプログラ
ムを実施し、延べ1,100人を超える皆様にご参加いただきまし
た。（動画の再生回数を含む。）

ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

【実施プログラム】

◆レインボーラウンジ

期間中メディアラウンジに「レインボーラウンジ」を設け、性の多様性に関する関連書籍やパネル、レイン
ボーフラッグの展示等を行いました。セクシュアル・マイノリティに関する情報発信や相談支援団体である
「プライドハウス東京レガシー」の専門スタッフが常駐し、気軽に交流し情報交換できるスペースとなり、期
間中120名以上の学生・教職員の方が訪れました。また、ミニイベントを開催し、「婚姻の平等について知ろ
う」のレクチャーや「アイロンビーズでレインボーグッズづくり」など、性の多様性について知り、学ぶ機会
を提供しました。

※DIVERSITY WEEKsの詳細な開催報告記事は
以下のページに掲載しています。

<https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20221208140852/>



◆シンポジウム「性の多様性を自分の問題として捉えるー性の多様性と特権ー」（Zoomによる開催）

講師 中京大学教養教育研究院 風間 孝 教授

性の多様性を自分の問題として捉えるための鍵となる「自らの持つ特権の自覚」について、双方向のやり取りを交えて学びました。

◆HOSEI DIVERSITY 講座シリーズ

本学教員6名が講師を務め、「ジェンダー平等」や「スポーツと多様性」「LGBTQと収入」など様々な視点からダイバーシティについて学ぶことができる講座10本を配信しました。140名を超える方から受講申込があり、講座の合計再生回数は530回以上となりました。

◆LGBTQ等に関する個別相談

プライドハウス東京レガシーの専門スタッフによる「LGBTQ等に関する個別相談」を実施しました。プライバシーに配慮した環境で、多様な性のあり方に関して、大学生活や人間関係等で悩んでいることや、支援等に関して興味関心がある方等からの相談を受け付けました。

◆学生団体紹介ショート動画チャンネル

「グローバル」「障がい」などダイバーシティに関連する活動をしている本学の学生団体やゼミが作成した活動紹介ショート動画計8本を公開しました。

◆FD教員セミナー「LGBTQ等学生への配慮 ～教室の現場は何ができるのか～」（Zoomによる開催）

講師 鳴門教育大学大学院 人間教育専攻
葛西 真記子 教授

約70名の本学大学教員や付属校教諭が参加し、教室等の現場におけるLGBTQ等学生への配慮について学びました。

【学生体験記】

「DIVERSITY WEEKsに参加して」

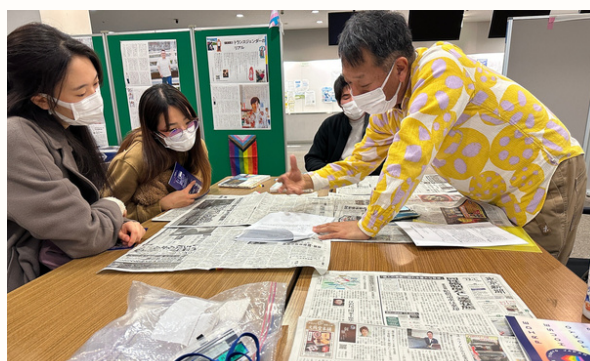
重村 倫音（グローバル教養学部3年）

11月に行われたDIVERSITY WEEKsへの参加を通して、今までにない形で法政大学に関わることができたと感じています。また、イベントを通して授業ではなかなか得ることのできない貴重な知識を得ることや色々な方と繋がることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今学期、私はHosei Promotion Projectという留学生と共に法政大学を発信していくというプロジェクトに携わっていますが、DIVERSITY WEEKsのプログラムの一つとして、このプロジェクトを紹介するショート動画を作成しました。動画を作成することで法政大学が数多くの留学生をさまざまな国々から受け入れていることを知ることができ、驚きました。

また、私はダイアナコー教授のインターセクショナルセミナーに在籍していますが、セミナーにおいて、DIVERSITY WEEKsシンポジウムに参加しました。中京大学風間教授の講演では、アウティングという、他人のセクシュアリティを同意なく周りに広めてしまうことの怖さや、LGBTQ当事者が直面する日常での差別などを実際にあった事例を元に学びました。今まで、授業でLGBTQや性的マイノリティに関するトピックに触れてきましたが、今回はさらに深いトピックに触れることでさらに知識を深めることができました。

メディアラウンジで開催されていたレインボーラウンジでは日本における同性婚と法律の問題について、実際合法化へのアクティビズムに参加している方々から、現在の同性婚判決の現状について詳しく教えていただきました。私は高校生のころから同性婚と日本の社会についてのトピックを調べてきました。その中で、日本の法律と同性婚がとても複雑で現状を理解するのに苦戦していましたが、説明を聞くことで、一気に理解を深めることができました。



レインボーラウンジで、同性婚訴訟の判決に関する新聞記事を読み比べる様子

HOSEI DIVERSITY 講座シリーズも受講しましたが、様々な分野の教授がレクチャーを担当し、基礎から専門的なことや深い部分までLGBTQに関するトピックを学ぶことができました。

今回のDIVERSITY WEEKsへの参加を通して、今まであまり触れることができなかったトピックを深めることができ、とても良い経験となりました。動画制作や、講演、レインボーラウンジへの参加などの様々なアプローチの仕方でもDIVERSITY WEEKsを経験することができ、とても興味深かったです。

By participating in DIVERSITY WEEKs
Rin SHIGEMURA
Global and Interdisciplinary Studies student

By participating in DIVERSITY WEEKs as a member of the Hosei Promotion Project and as a Hosei University student, I gained much knowledge and learned things that cannot be covered in lectures.

I am a member of the Intersectionality Seminar by Professor Khor and I am studying inequalities in society. As a part of the seminar, we joined the symposium delivered by professor Kazama and learned, among other things, about Outing and why it harms those being outed, based on a true story.

Moreover, at the Rainbow lounge held at the Media lounge, staff from Pride House Tokyo explained the situation about the legal status of same-sex marriage in Japan. I have been studying Japanese society and LGBTQ plus community since high school, so it was a really interesting talk. Every time I searched about Japanese legalization and same-sex marriage, I got confused by a lot of specific terminology and phrase but after I heard the explanation from the staff from Pride House Tokyo, I came understand the situation of same-sex marriage and legalization in Japan.

Moreover, the lectures series related to diversity issues delivered by professors in different faculties at Hosei university were awesome. Since every professor focused on a different topic or field, such as diversity in sports, human rights, LGBTQ, and diversity in racial aspects, it enhanced my knowledge on intersectionality and enriched my academic knowledge overall.

In sum, I could deepen my learning in various topics and gain valuable knowledge.

ご出身は？

ダイアナ コー
法政大学 ダイバーシティ
担当 常務理事



「ご出身は？」は、私が大学院進学のために渡米した当初、最も多く聞かれた質問でした。数年経つと、自分の出身をいつも説明しなければならないことが、だんだんと面倒に感じるようになりました。大学院の寮で最初にルームメイトになったのは、中国系4世のアメリカ人でしたが、彼女もよくこの質問をされたそうです。

「カリフォルニア州のサンノゼ市出身」だと答えると、「そうじゃなくて、本当はどこから来たのかって聞いているのよ」と、さらに迫られたそうです。

アジア系アメリカ人の歴史を読んで学んでいくうちに、この一見何の変哲もないこの質問の意味がわかってきました。

「どこの出身か」、「もともとはどこから来たのか」と尋ねることは、その人がこの国の人ではない、と言っていることとなります。私のような「外国人」（アメリカ国籍を持つ兄と姉がいるとはいえ）にとって、この質問は、自分が海外から来たことを常に思い起こさせるものでありました。私の友人のような中国系アメリカ人にとって、この質問はアメリカ人の彼女を外国人として扱い、彼女を「ネイティブ（アメリカ人）」であると認識していない、というメッセージでした。いずれにせよ、この問いは境界線を引き、誰がどこに所属するのかを規定するものであります。危機的な状況下では、このように外国人とネイティブと間の境界線を常に示すことは、パンデミック時にアジア人とアジア系アメリカ人に向けられた多くのヘイトクライムに見られるように、悲惨な結果につながる可能性があるのです。

日本では、日本国籍の学生を含め、日本語以外の言語のほうが話しやすいアジア系の学生によると、電車を待っているときや電車に乗っているときにちょっとおしゃべりしていると、「黙れ」と言われたり、「日本にいたのだから日本語を話せ」と言われたりするとのこと。学生たちの若さ（そしておそらく女性であること）も加わって、このようなマイクロアグレッションのターゲットになりやすいのかもしれませんが。私の場合は、電車の中で英語や広東語を話すと、じろじろと見られるだけです。そして別の場面では、「日本人よりも日本人らしい」と言われることもあります。しかしこの「褒め言葉」には、いつも複雑な気持ちにさせられます。

イギリスの作家でフェミニストのヴァージニア・ウルフは、第二次世界大戦中に、「女性として私に国はない…女性として私の国は、全世界である」という言葉を残しています。ウルフは多様な世界のビジョンとしてこのように語ったつもりはなかったかもしれませんが、国境の意味や多様性との関係も考えたいところです。

Where are you from?

Diana Khor
HOSEI University Executive Trustee

“Where are you from?” was the question I was asked the most when I first arrived in the U.S. for graduate school decades ago. After a few years, I began to feel it a bit cumbersome to always explain where I was from. My first roommate in the graduate dorm was a fourth generation Chinese American. She told me that she was asked that question too, and when she told people that she was from San Jose, she was pressed further, “No, I mean where are you REALLY from?”

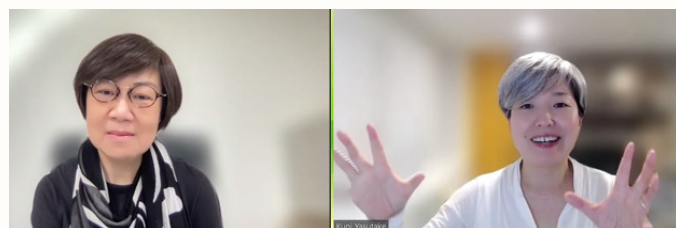
As I read more about Asian American history, I learned the significance of this apparently innocuous question. Where are you REALLY from or where are you ORIGINALLY from suggests that one is not a native/local here. For a foreigner like me—even though I do have siblings who are American citizens—the question came as a constant reminder that I was from outside the United States. For a fourth generation Chinese American like my friend, this question constructs her as a foreigner and does not recognize her as the “native” that she is. In either case, it is a question that draws boundaries and prescribes belongingness. In times of crisis, this constant marking of boundary between foreigners and natives/locals can lead to dire consequences, as witnessed in the number of hate crimes directed against Asians and Asian Americans during the pandemic.

In Japan, Asian students, including those with Japanese nationality, who are more comfortable speaking English or a different language, have reported being rudely asked to “shut up” or told that they should speak Japanese as they are in Japan, when they chatted with friends while waiting for a train or riding on one. Their youth (in combination with their being female) might have made them more vulnerable to such microaggressions; I am only being stared at when I speak English or Cantonese. At times I am even complimented for being “more Japanese than Japanese”. Such a “compliment”, however, leaves me feeling uneasy.

The British author and feminist, Virginia Woolf, writing during WWII, once said, “As a woman I have no country…as a woman my country is the whole world.” Woolf did not intend her words to be a vision for a diverse world, but it does give us food for thought for it.

<対談/CONVERSATION> ダイバーシティトレーニングと 異文化コンピテンシー

DIVERSITY TRAINING AND
INTERCULTURAL COMPETENCIES



ダイアナ コー ダイバーシティ担当常務理事と、本学卒業生でアメリカで多文化間コミュニケーション・スペシャリストとして活躍する安武 邦子 氏の対談を行いました。安武氏が企業等に提供しているダイバーシティトレーニングの内容や異文化間コンピテンシーの学習・体得に関して話を伺いました。以下のHPに日本語と英語で対談記事を掲載していますので、ご覧ください。

「ダイバーシティ・男女共同参画サイト」>対談
<https://www.hosei.ac.jp/diversity/taidan/>

◇ 「ダイバーシティに関連する研究を行っている教員の紹介」を公開しました

本学「ダイバーシティ・男女共同参画サイト」にダイバーシティに関連する研究を行っている本学教員23名の紹介を掲載しました。本学にはジェンダー、障がい、男女共同参画など様々な分野、テーマで研究している教員が在籍しています。学外での講演等の情報も掲載していますので、ぜひHPをご覧ください。

「ダイバーシティ・男女共同参画サイト」>研究活動
<https://www.hosei.ac.jp/diversity/efforts/result/>